

令和8年度 第2回米子市社会教育委員の会・会議概要

○日 時 令和8年8月28日（金）午後3時00分から午後4時40分まで

○会 場 米子市立図書館多目的研修室（2階）

○出席者 委員 ※敬称略

安部悟（会長）、内藤旗彦（副会長）、南前孝明、坪倉幹人、湯浅隆司、内田聖、前田努、河津ルミ子、洋谷友子、亀井智子、大野公寛（web）

事務局

教育委員会：浦林教育長、金川事務局長

生涯学習課：田中課長兼社会教育主事、松永課長補佐、新見主任兼社会教育主事、前田主任兼社会教育主事補

こども政策課：永榮課長、佐藤担当課長補佐兼社会教育主事、前田係長

人権・男女共同参画課：松本人権政策監

文化振興課：林課長補佐

スポーツ振興課：渡部課長

○欠席者 なし

○傍聴者 1名

○報道関係 なし

【協議会の概要】

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 会長あいさつ

4 内容

（1）審議会等について

社会教育委員が出席した各審議会の概要を報告。

補足として内藤副会長から、第49回中国四国地区社会教育研究大会（鳥取大会）実行委員会の検討状況について情報共有があった。

（2）米子市教育振興基本計画改定について

《事務局説明》

こども政策課から、現行の施策と素案案の検討状況について概要を説明。

○（委員）3－7「子どもの地域活動の支援」について、具体的にどのような支援を行っていくのか伺いたい。

⇒（事務局）

現行計画では、受け皿としての「コミュニティ・スクールの仕組み」を設置することを主眼とした施策としていたが、令和6年度に全小中学校に設置が完了していることから、改定案ではコミュニティ・スクールの仕組

みを最大限に活かし、子どもたちの主体性を引き出すための支援を行っていく内容としている。

- （委員） 2－3 「生活に役立つ図書館機能の発揮」について、市立図書館の「選書」は、図書館司書だけで様々な分野のニーズを把握して図書を選書することは難しいため、専門家の意見を取り入れる必要があるのでは。

⇒（事務局）

レファレンス対応や研修をとおして司書の選書能力の向上を図っていきたい。専門家との連携についての提案は図書館に伝える。

- （委員） 3－1 「学校給食における地産地消の推進」について、「給食関係者」には、流通関係者も加えてもらいたい。

⇒（事務局）

ご提案について担当課に伝える。

- （委員） 3－3 「歴史文化遺産の保存と活用」について、高校社会科教員の郷土の歴史・文化への関心の低さを懸念している。また、改正前の12行目「これまで～」以降の記述が案では削除されているが、重要だと考えるなら残した方がよいのではないかと。①の施策に「米子城跡」や「尾高城跡」と例が挙げられているが、このような書き方をするとその他の様々な文化遺産が軽視される恐れがある。すべての文化財を平等に扱うべきだと考えるので、記述を検討してもらいたい。

⇒（事務局）

各担当者と施策の記述について再検討したい。

- （委員） 3－5 「学びあう地域づくりの支援」について、地域学校協働活動推進員の任命方法について聞きたい。

⇒（事務局）

各小中学校で地域と学校の架け橋として活動してきた人の中から、学校長が推薦書を提出する形で任命しており、一般的な市の職員採用試験とは異なる。

- （委員） 3－6 「公民館活動の充実」について、地域における公民館の役割は大きくなっているため、必要な予算措置や職員配置など、実施体制の整備はしっかりしてもらいたい。

⇒（事務局）

近年、予算の減額はしていないものの物価高騰の影響により実質的な減になっている部分はある。公民館職員には少数で頑張っているところだが、人手が足りないときは、地域振興課に在席している地域活動支援員が支援している。また、作業効率を向上させるため ICT・AI の活用等の研修を行っている。公民館の仕事が増えている、多様化している、高度化しているという面は否めないところもあるが、地域活動の主体はあくまで地域のみなさんであると考えている。地域において公民館職員にはコーディネーターとしての役割を期待しており、そのスキルを上げるための研修にも取り組んでいる。

- （委員） 2－1 ⑤「情報教育と ICT 活用による授業の充実」について、生成 AI による動画等が普及する中、情報を鵜呑みにせず批判的思考を高める視点を養うことを施策に盛り込むべきではないか。

4－3「スポーツに親しむことのできる環境づくり」について、「マルチタスク世代」という表現はわかりにくいので具体的な年代や表現に直した方がよいのではないか。

⇒（事務局）

マルチタスク世代とは、同時に多くのことをこなすのが当たり前になっている若い世代を指す言葉。市民のみなさんに理解していただきやすい表現を検討していきたい。

（３）関係課取組状況について

《事務局説明》

各課から、令和 8 年度施策の取組状況を報告した。

○生涯学習課

- ・市民講座「未来スケッチ」を全 3 回の連続講座で開催。講師とのインタビューを通じて受講者の自己実現のきっかけづくりの場を提供する。
- ・米子市二十歳を祝う会実行委員会が 6 名で始動。実行委員はアトラクションの企画や当日の司会進行などを行う。
- ・コミュニティ・スクールの推進状況、地域・学校の連携・協働の状況には差があるため、隔月の情報交換会で事例の横展開や課題の共有を行っている。
- ・毎年恒例の図書館まつりを 11/7,8 に開催。7 日には図書館まつりにあわせて読書をテーマとした市長講演も行う。

○地域振興課

- ・公民館において、子どもの自習スペースとしての活用が進んできている。運営上困難な館もあり、全館実施までには至っていない。
- ・中学生が小学生の学習の支援をする、夏休み等に小学生のイベントを行うなど、コミュニティ・スクールと重なりあいながら、若い世代の公民館の利用促進につなげていきたい。

（委員）中学生が小学生の学習支援をする話があったが、例えば教員を目指している子を集めて、教える楽しさを感じたり、どのようにすれば伝わりやすいか考える場になると、キャリアを選択していく上でも有効だと思う。部活動の地域移行に関しては、クラブチームは中体連の大会に参加できない場合があると聞いているが、参加の幅を広げてもらうよう検討していただけたらと思う。

（委員）公民館職員の人手が足りないという話に関して、必ずしも公民館職員が担う必要のない地域団体の資料やチラシの作成などが、団体関係者の高齢化により自力で作成ができないために公民館職員が対応せざるを得ないことが多くなり、職員の大変さにつながっている。福米 RCS（地域連携サポート）でも、子どもたちが関係する事業などでは公民館職員と相談の上

で、役割分担している。子どもは地域の宝と言うが、それには地域の方々の力も必要だし、保護者にも当事者意識をもって関わってもらう必要がある。そういう場でできたつながりが、将来いろいろなところで生きてくるのだと思う。

自習室については、実際に運営をしていると中学生自身も自分の勉強をしたいと思っている子が多いので、小学生に勉強を教えるボランティアとして募集するのではなく、小学生も中学生も同じ自習室に来てもらう中で徐々に関係性ができ、休憩タイムでちょっとわからないところを質問しあったりという自然な流れに任せるのがよいのではないかと感じている。

各地域の様々な団体や取り組みについて、知られていないことも多いため、まず地域の方に広く知ってもらうことが重要。

○こども政策課

- ・今年度、公民館での子どもの居場所づくり事業として **12** 地区から応募いただいた。学習支援や料理を一緒に作ったりという活動を地域の方中心に行われている。

○人権・男女共同参画課

- ・令和 8 年 4 月に「人権尊重のまち米子市をつくる条例」を改正、内容も充実させた。人権教育地域懇談会でのパンフレット配布や説明を行い、人権侵害を生じさせない社会を作っていくという強い思いをお伝えしている。

（委員）人権条例が新しくなったことは学校に情報提供できているか。

⇒（事務局）

人権条例が改正された啓発チラシは学校に案内したが、具体的な内容を記載した概要版のパンフレットは提供していない。後日、学校に案内させていただく。

○文化振興課

- ・「あらゆる市民に文化芸術に触れる機会を通じて、多様な価値観や表現への理解と感性を育て、豊かな人間性と創造力を備えた人になってもらいたい」を目標として取り組んでいる。
- ・オーケストラを始めとした音楽講演、美術館横のカフェでお茶と地元作家の作品展やギャラリートークを開催。美術館ホームページ上で収蔵作品のオンラインコレクション展を開催中。9 月には市の美術展覧会を開催し、市民から **300** 点余りの作品が出展予定。6 月から 7 月にかけて市の音楽祭を延べ 5 日間開催し、出演者は **68** 組・約 **850** 人、観客は **4000** 人余りと大変賑やかだった。9 月から 12 月にかけては秋の文化祭を米子市と米子市文化協議会の共催で開催する。

○スポーツ振興課

- ・5 月から市民体育祭を開催中で、半分程度の種目は開催済。参加チームの減少が課題だが、複数地区での合併チームでの参加を認めるなど、見直しも行っている。

(4) 情報共有、意見交換

各委員より、取組状況を報告した。

(前田委員：米子市小中 PTA 連合会)

- ・“つながる”をテーマに、単位 PTA の声を聴く、対話をする取組を実施中。

(内田委員：米子市文化協議会)

- ・様々な分野から 56 団体が加盟しており、部活動の地域移行の力になりたいと考えて、我々にできることを考えている。

(亀井委員：元町通り商店街振興組合理事)

- ・商店街に会社があり、薬局を改装してカフェを経営しながら、いかに若い方々を巻き込んで一緒にやっていくかをテーマに取り組んでいる。7 年の間に学校の授業のフィールドワークを受け入れる回数も増えてきた。卒業した大学生が関わりたいと申し出てくれ、今年の土曜夜市には大学生 2 名が運営に関わってくれた。動かせるようになってきた。このようにつながりをどんどん増やしていきたい。

(洋谷委員：とっとり SDGs 伝道師)

- ・様々な団体や学校から依頼を受け、防災やまちづくりの教育を楽しくやるという活動を行っている。

(坪倉委員：米子市スポーツ推進員協議会)

- ・米子市体力づくり歩け歩け大会やニュースポーツの普及など、地域のみなさんの健康長寿を支えられるように取り組んでいる。

(南前委員：米子市人権・同和教育推進協議会)

- ・公民館大学の人権講座（住吉）では、パラスポーツから学ぶ人権として講話があり、参加された方々は興味を持たれていたようで、良かった。
- ・小地域懇談会の活性化には、学校の教員や PTA を巻き込んでいくことが必要と考えているが、なかなか難しく感じている。

(河津委員：福米 RCS)

- ・福米地区で地域場を活用した活動をする中で、自分自身も 8 つの団体に所属して、地域の方と一緒に活動をしている。福米 RCS 独自の活動としては、中高生の自習室、小学生のマルシェ、外国人スタッフと英会話を行う等している。今年は中高生の RCS サポーターの育成を進めており、小学生に向けた自主企画「百人一首大会」を考えているところ。さらに、地域で頑張っている大人、団体を紹介する冊子づくりを中高生サポーターと一緒に作成していく予定である。

(湯浅委員：地域学校協働活動推進員)

- ・淀江小学校地域学校協働活動推進員と同時に民生児童委員もしており、研修として防災ワークショップを 10/17 に実施予定。支え愛マップの作成、高齢者の避難誘導、避難所の開設といったテーマでグループ分けをする。
- ・11/22 には淀江の芝生広場で昨年に続き防災フェスを、あわせて小中学校の PTA と連携し農協まつりも兼ねてマルシェも開催予定。

(大野委員：島根大学大学院講師)

- ・社会教育が学校や地域づくり、防災、福祉やいろいろなところとつながっていく必要があると感じている。総務省と文科省の共同の通知にもあったように、縦割りを超えていろいろな施策や主体がつながりながら推進していく必要がある。
- ・教育振興基本計画にもあった「人づくり」というのが教育政策全体の中でも大事なキーワードになると思う。「人づくり」がどういうことかということについては、またみなさんと一緒に考えていきたい。

(内藤委員：福米東おやじの会)

- ・おやじの会をはじめて 24 年。例年通りの事業をしながら、昨年、社会教育委員になってから意識しているのは「人づくり」「つながりづくり」。先ほど公民館職員が大変という話があったが、私の地区の公民館職員は仕事を抱え込むのではなく、人と人をつなぐことでコーディネーターとしての役割を担っている。自分もいろいろお願いされることが多いが、居心地がいいからそれでいいと思っている。

(安部委員：小学校長会)

- ・各学校でコミュニティ・スクールの会議や地域学校協働活動が行われている。委員のみなさんの居住地域などで、ぜひ参加してみていただきたい。

8 その他

9 閉会